

2026年3月10日

## おおいた大学発リカレント教育シンポジウム(3/3) 参加者アンケート結果サマリー(回答数:59件)

大分大学 地域連携プラットフォーム推進機構

### 【アンケート結果の全体像】

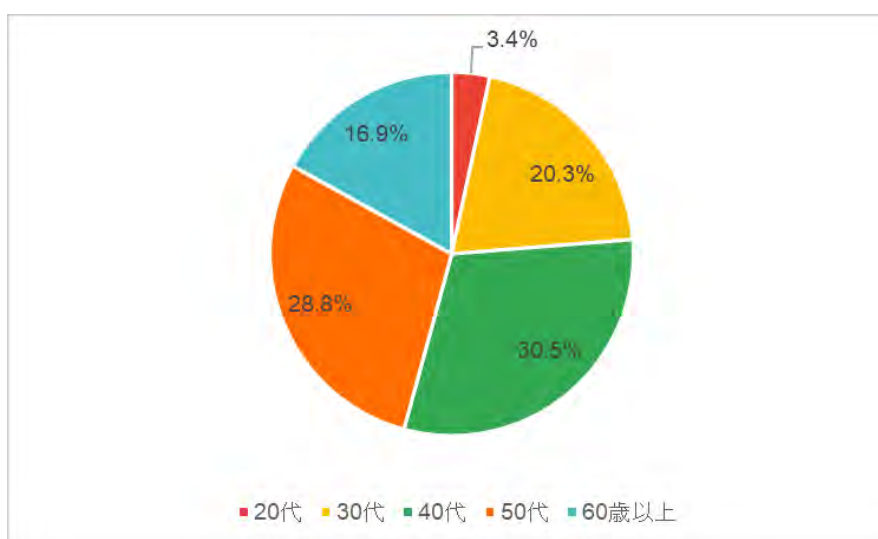
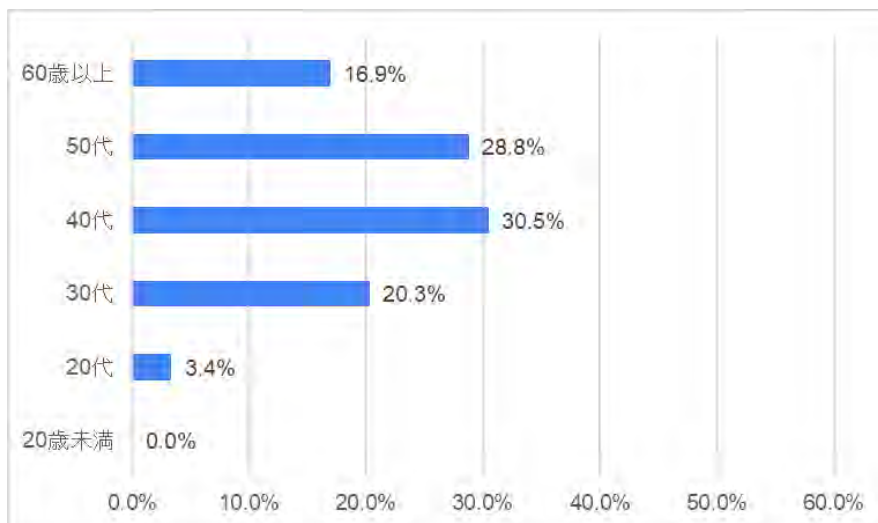
・本シンポジウム終了後に実施したアンケートには、合計59名の参加者から回答が寄せられました。回答者の年齢層は30代から60代以上まで幅広く、特に40代・50代の参加者が多くを占めました。また、役職についても、若手・中堅層から係長・課長クラス、部長、経営者層まで多様な立場の方々に参加いただきました。

・社会人のリカレント／リ・スキリングに対する姿勢については、「義務を越え時流程度には取り組んでいる（または取り組むべきである）」と回答した方が多く、加えて「熱意を持って取り組んでいる（取り組むべきである）」という積極的な回答も一定数見られました。一方で、「義務以上には取り組んでいない」「まだ取り組めていない」という回答もあり、リカレント教育への関心と実践の間には一定の幅があることがうかがえました。

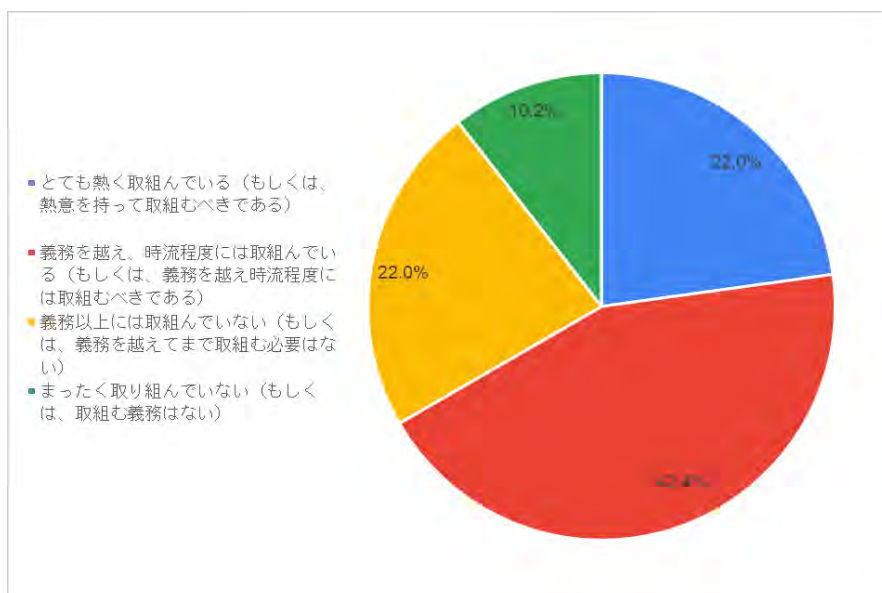
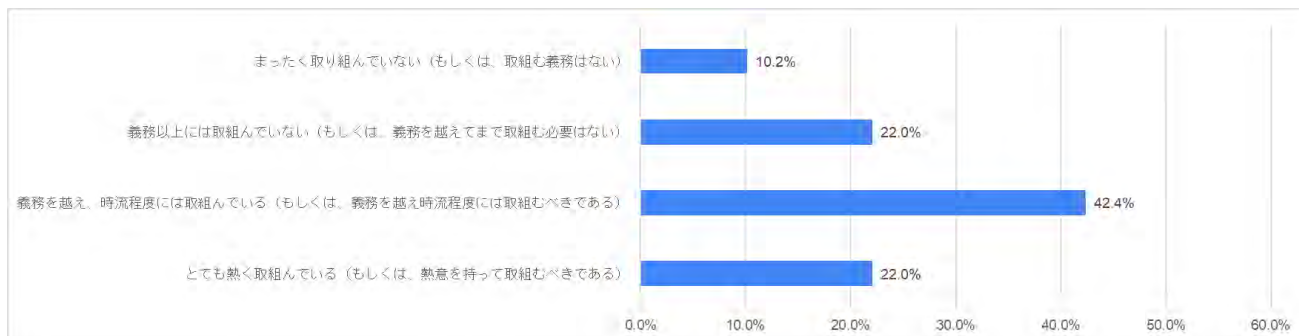
・シンポジウムの内容については、「持ち帰るもの・印象に残る言葉があった」「おおいにあった」と回答した方が多数を占め、参加者の多くが何らかの気づきや示唆を得たことが確認されました。また、本シンポジウムへの参加によって「所属組織におけるリカレント教育の重要性を感じた」とする回答も多く、社会人の学び直しに対する意識の向上につながったことがうかがえます。

・今後の大学発リカレント教育プログラムへの参加意向については、「マイスターコース」「トライアルコース」「女性社会人リカレントコース」「経営者啓発コース」など、具体的な講座の受講を希望する回答が複数見られました。一方で、「迷っている」や「現時点では予定はない」とする回答も一定数あり、社会人の学び直しに対する関心の広がりとともに、参加に向けた検討段階の層も多く存在していることがうかがえます。

問1 年代をお答えください。



問2 社会人リカレント/リスキリング教育に対するご自身の姿勢の程度を教えてください。

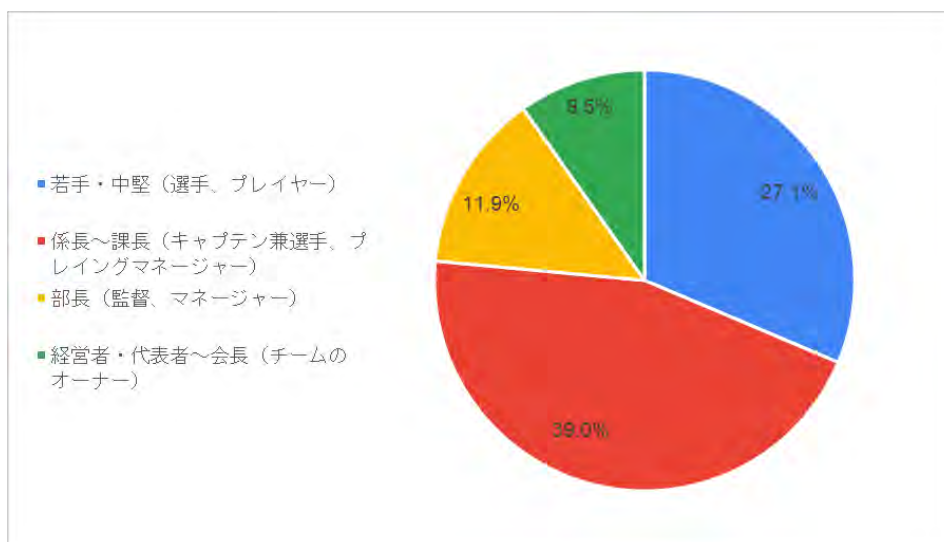
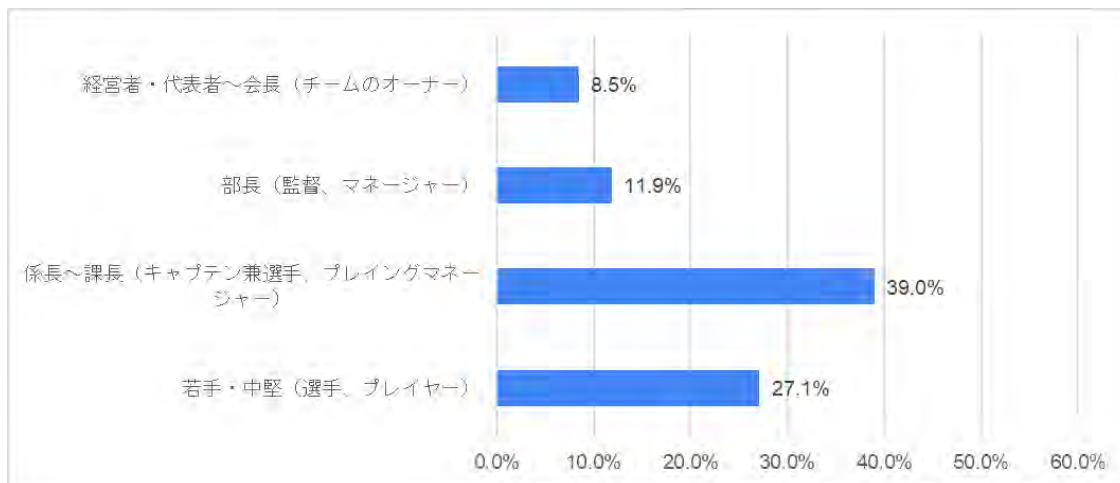


<その他自由記述回答>

取り組まなければならないのかな？でも、何を、どうやって？

必要と考えているが、手が回らない

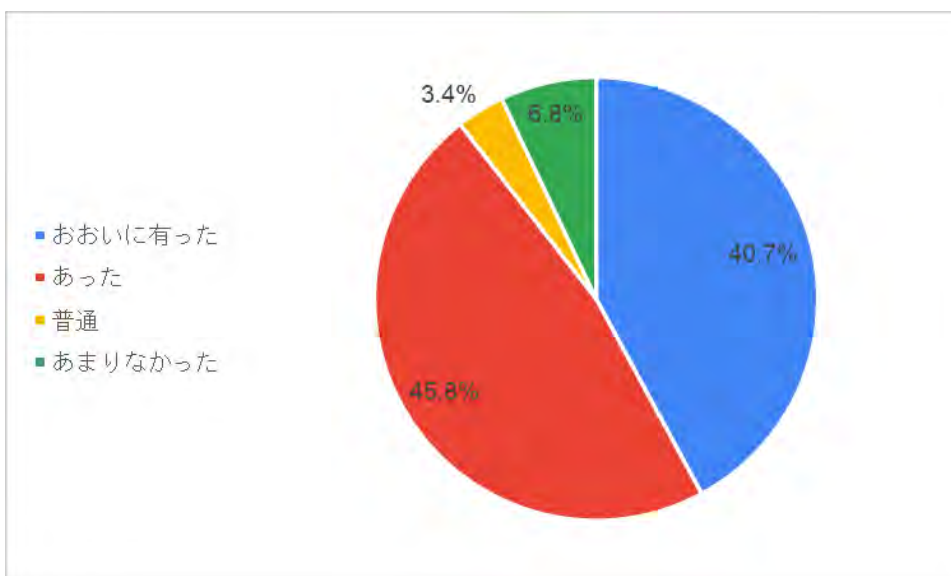
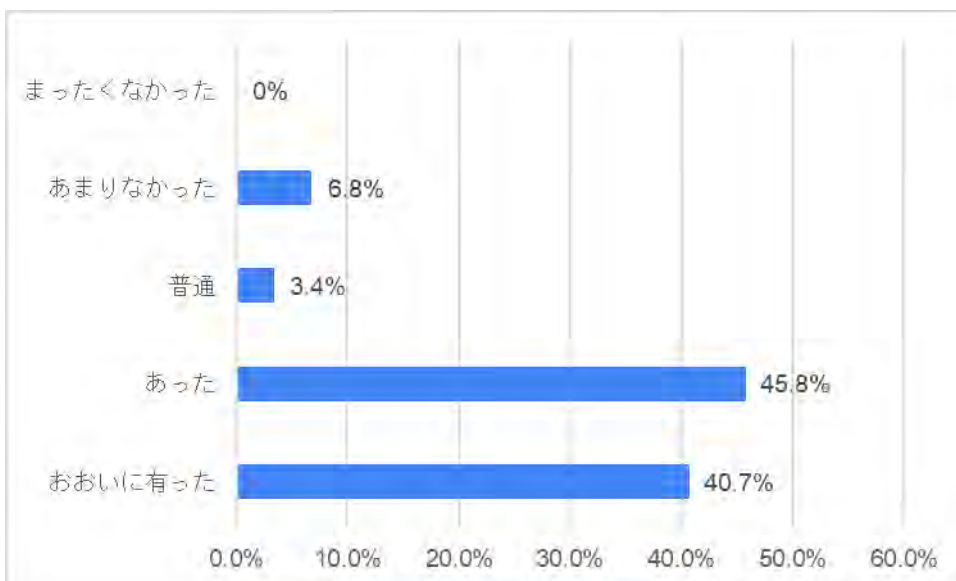
問3 役職(スポーツチームでの例)についてお答えください。



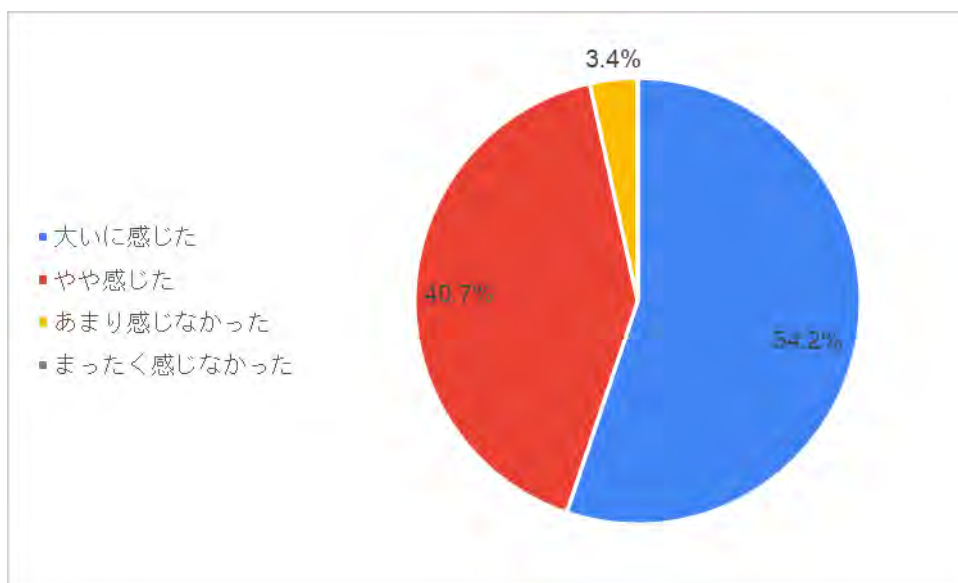
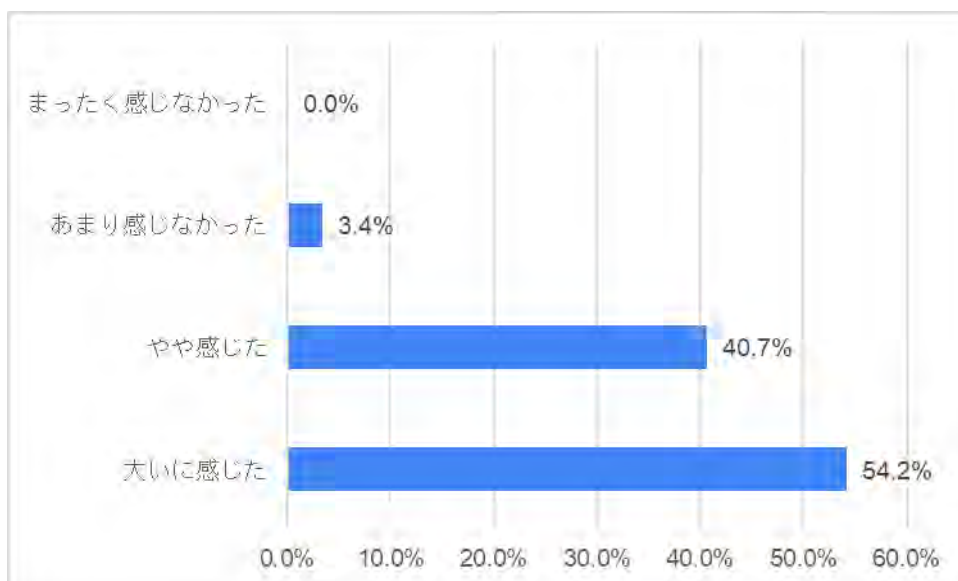
<その他自由記述回答>

個人事業主、フリーランス、顧問、非常勤、学科長、地域連携推進センター長・広報室長、トレーナー

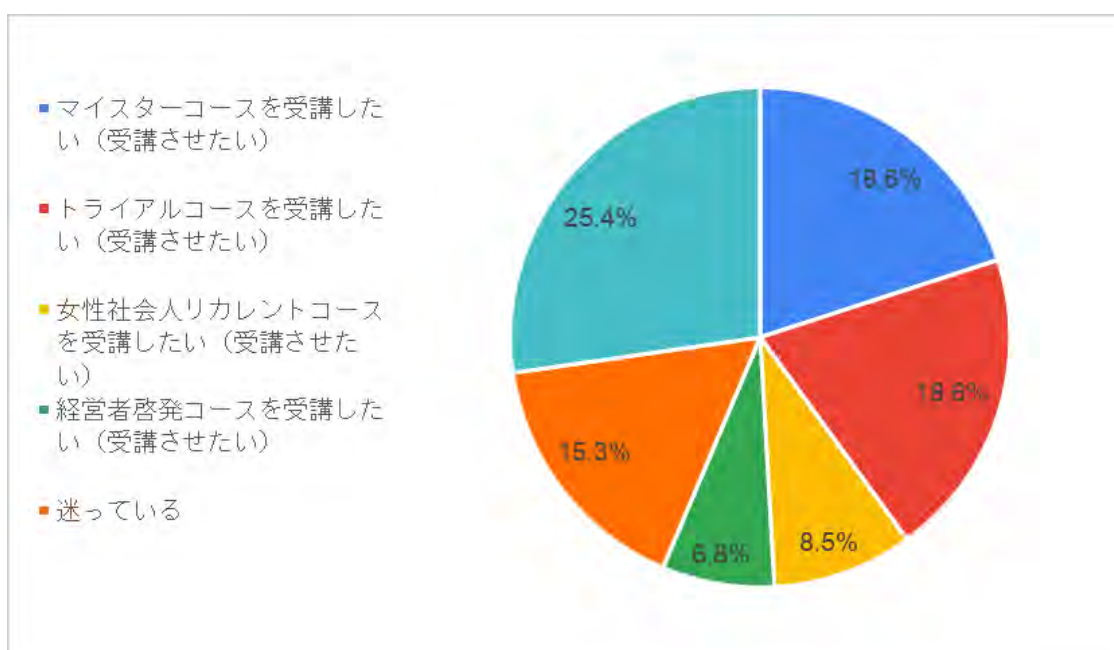
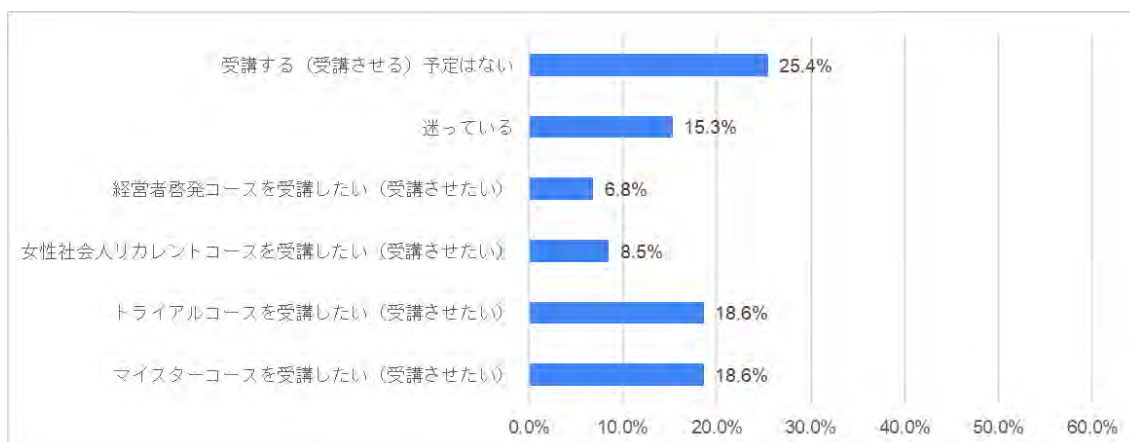
問4 本シンポジウムでお持ち帰り頂くモノ・言葉はございましたか。感想をお聞かせください。



問5 本シンポジウムに参加して所属組織のリカレント/リ・スキリング教育の整備が必要とお感じになりましたか。



問6 今後、大学発の”社会人学び直し”を受講したい(受講させたい)と思いますか。



<その他自由記述回答>

受講済、プログラム開発の参考にしたい

問7 ご意見・コメントがありましたら下記にご記入をお願いします(原文ママ)。

・大学の人事的なリソースの問題があり、リスクリングについて現状を大幅に拡張することが困難な状況です。構造的な問題なのだろうと思います。政府の動向を聴くことができたため、大学での議論の中で紹介したいと思います。ありがとうございました。

・成果発表は素晴らしいと思いました。ただ、その成果を他社に還元するための効果ある方法をご教授願いたい。また、参加チームのメンバーがそれぞれの社に持ち帰って、どう活かしているか。どういう状況か。変わったのか。うまくいっているのかを発表していただきたいと思いました。

・経済的・時間的余裕を少数を除いて、リカレント教育を望む多くはスキルアップや収入アップに繋がりたいと思います。半導体など成長分野への転職を目的としたプログラムなど、参加者にメリットの大きい研修だと参加してみたいです。

・貴重な場を設けていただきありがとうございました。

・地域の熱量が感じられました。参加して良かったです。

・素晴らしい学びをありがとうございました

・本日は貴重な会に参加させていただきありがとうございました。実際は「対話」の手法を組織運営や人材育成のなかで活用していくような印象を受けました。もし「組織内の対話」が掲げるテーマのひとつにあるようでしたら、「ネガティブ・ケイパビリティ」や「NVC(非暴力コミュニケーション)」も重要な要素になるのではないかと思いました。他地域、大学での取組みについて不勉強なため、導入されているところがあるか存じ上げませんが、もし取り入れているところがないのであれば、大きな独自性になるかもしれません。

・ありがとうございました。

・非常に有意義な時間を過ごすことができた。リカレント教育のトレンドや、国の取組方針・政策を理解することができた。

・貴重な発表、講演ありがとうございました。「学び直し」というキーワードで参加いたしましたが、どちらかというとリーダー育成や組織開発的な話が多く、得るものが少なかったです。その中で、リスクリングをグループ内で進める上で「ろうそく」と「薪」の違いは腑に落ちました。

・このような機会を設けていただき有り難うございました。シンドー様の「やってもどうせ変わらない。」と思っていた従業員の意識を変えた学びを仕組み化した取組が印象的でした。また、リカレント教育の成果発表において、挑戦と安心が共に備わって組織は前に進むといった考えに至ったことに感銘しました。

・リカレント教育はこれからの地域においては大変必要なことであり、地域社会や企業、自治体とより連携して取り組んでいただきたい。

・今回のシンポジウムは、非常に参考になる点が多く、大変有意義な機会となりました。特に印象的だったのは、企業側をしっかりと巻き込みながら事業を推進している点であり、単発の取組ではなく、継続的なコミュニティが形成されていることに強い意義を感じました。企業の主体性を引き出す設計がなされている点は、今後の事業展開を考えるうえでも大いに参考になるものでした。また、アプリ開発を通じて取組を可視化しようとする試みも非常に興味深く感じました。特に、興味喚起や診断機能を入口としてプログラムに触れてもらう仕組みは、参加のハードルを下げる有効なアプローチであり、広報や受講者獲得の観点からも示唆に富むものでした。今後の事業設計においても、こうしたコミュニティ形成の視点や、デジタルツールを活用した入口設計を取り入れていきたいと感じました。

・非常に参考になるお話でした。基調講演の相場様に聞きたいことがあったので、もう少しお時間があつたらなと思いました。

・大分合同新聞の広告を見て、「共に学び続ける職場」に興味があり参加しました。石川先生の「目の前の仕事に役立つ学び」と「目の前のことを越える学び」、P6「人の器」、「スキル・知識」というキーワードがとても心に残りました。今日はシンドー様の話も聞きながら、自分にとって学びとは何か、それをどう職場に活かすことができるのかについて考えることができました。リカレント教育がもっと身近なものになり対話が深まり、互いが高めあえたり、支えあえる世の中になることを切に願います。今日は本当にありがとうございました。

・社会教育・生涯教育におけるリカレント教育について、何かしら取り組まなければならない、と考えています。

・「学びが人を変え、仕事を変える」、「自分達が会社を変えると社員の意識に火をつける（傍観者が主体的になる）」という相場氏の実体験からの言葉がとても良かった。講演者がリモートだったのは残念。

以上